

令和6年度 自己評価表（校務分掌部・学部）

※評価基準：A（～90%）＝達成できた、B（89～80%）＝おおむね達成できた、C（79～60%）＝ある程度達成できたが改善が必要、D（59%～）＝達成できなかった

	関連する重点目標	取組目標	具体的な取組	保護者アンケート	教職員アンケート	評価A～D	反省と課題及び改善策	
教務部	2②ICTを活用した授業、校務処理の充実	・ICTを活用した校務処理の充実と共有を図る。	・校務支援システムの管理者権限を期間限定（夏季休業中等）で担任に振り分け、「学籍基礎データ」の変更等が行えるようにする。 ・情報部と連携して保護者用ホームページに予定表を掲載し、情報の共有を図る。	99%	100%	100%	反省・課題	【成果】 ・校務支援システム「学籍基礎データ」を担当が変更できるようにした。また、マニュアルも作成し研修も行った。児童生徒の基礎情報を閲覧することができるようになったので、情報の一元化につながった。 ・最新の年間行事予定表をTeamsチャットから閲覧できるようにし、情報部と連携して保護者用HPの「学校だより」に反映してもらった。提示する行事予定の不備がなくなった。 【課題】 ・「学籍基礎データ」の修正について、住所、氏名等それほど変更がないので、都度連絡、レクチャーする必要があった。
							改善策	・校務支援システムについては「学籍基礎データ」について学期ごとに教務主任と校簿・統計係が連携して連絡周知することで理解を図る。
学習指導部	1②児童生徒の発達の段階に合わせた系統的な指導を実践、生活指導の充実、キャリア教育の推進	・キャリア教育を意識した個々の目標を設定し、指導を行う。	・個々のキャリア発達段階の把握。 ・本校のキャリア教育全体計画を参考にした個別の指導計画の作成。 ・卒業後の自立を見据えた指導。	A	A	B	反省・課題	・年度初めにキャリア教育全体計画の周知や進路指導部長の講話を実施することで、キャリア教育の意識付けが図れた。また、学校課題研究のテーマに設定した学部においては、研究対象生徒のキャリア教育を意識した目標設定と指導を行うことができた。 ・担当学級以外の児童生徒の目標を把握し、一貫した指導をしていく必要がある。
							改善策	・学習集団の教員（学年やブロックなど）での話し合いの場の設定、児童生徒の目標や手立ての共通理解を図り、卒業後を見据えた一貫した指導を行えるようにする。
児童生徒指導部	3①保護者・地域への情報発信を工夫し、地域社会に開かれた教育課程を目指す	・いじめ対応や各種訓練等に関する情報発信の工夫と充実を図る。	・いじめ対応や防災に関する学校の取り組み、マニュアル等をホームページに掲載する。 ・いじめ対応に関するアンケートを定期的実施する。 ・職員研修を実施し、その様子や成果を周知する。	A	A	A	反省・課題	・いじめ対応や外部機関との連携、各種訓練、研修を実施し、その様子や成果についてホームページに掲載して情報発信を行うことができた。
							改善策	・いじめに関するアンケートや各種訓練の方法等について見直し、より効果的な方法を検討する。情報発信については、より分かりやすい表現、方法に見直す。
地域支援部	3①保護者・地域への情報発信を工夫し、地域社会に開かれた教育課程を目指す	・関係機関と情報交換を密に行い、地域のニーズを踏まえた情報発信の工夫を図る。	・特別支援教育連絡会や夏季研修の主催開催をする。 ・ボランティアスクールの開催や募集の工夫を行う。 ・こぶしだよりの発行をする。 ・HPへの掲載などの情報発信を行う。	A	A	B	反省・課題	・ボラスクでは募集の工夫を行うことができた。連絡会や夏季研修、ボラスクの様子をHPへ掲載して情報発信を行うことができた。また、こぶしだよりは4回発行することができた。
							改善策	・ボラスクの開催内容や進め方について検討してよりよいものにしていく。また、登録ボランティアの活用につなげていく。
健康指導部	2①安全教育の推進と保護者・地域との連携による感染症、防災対策の徹底	学校の施設・設備の実情等を十分に把握し、事故・災害等の発生を防止するため、点検等の見直しを行い改善することで学校安全の継続的な向上を図る。	・学校施設設備の安全点検を行う。 ・安全点検チェック表の見直しをする。 ・危険個所の把握及び周知を行う。	A	A	B	反省・課題	・月1回の職員安全点検に校庭の巡視を加えた。校内外の巡視をしないものの把握や整理をした。 ・突起物による危険など細部においても意識して点検できるようチェック表の見直しをする必要がある。 ・危険個所の把握及び周知について、ヒヤリハット事例を見返した。悪天候時の渡り廊下や外階段に危険を察知するための標識を作成し掲示できるようにした。
							改善策	・点検の質の向上を図るために、安全点検チェック表の項目を見直す。

	関連する 重点目標	取組目標	具体的な取組	保護者 アンケート	教職員 アンケート	評価 A～D	反省と課題及び改善策	
進路指導部	3①保護者・地域への情報発信を工夫し、地域社会に開かれた教育課程を目指す	・小学部から高等部までの進路指導の流れを知る機会の設定。 ・社会生活や職業生活に必要な力について知る機会の設定。 ・教員啓発の機会の設定。	・HPの進路指導に関する情報発信や更新の頻度を増やすとともに、その内容を吟味する。 ・教員や保護者に直接伝える機会を可能な範囲で調整して設定する。 (学部会・職員研修 等)	A	A	B	反省・課題	・進路日より、HPでの発信内容が若干煩雑だった。 ・保護者等や教員に進路に関する情報発信を設定する機会を作ることができたが、十分な時間の確保ができなかった。
							改善策	・進路日より、HPのそれぞれでどういった内容を発信するのかを検討する。 ・教員研修の実施や各学部ごとに保護者啓発する機会の設定を検討する。
渉外部	3①保護者・地域への情報発信を工夫し、地域社会に開かれた教育課程を目指す	・保護者や同窓生と親の会、地域のPTA関係団体との連携を深める。	・PTA活動に参加しやすい組織づくりや運営、行事や業務の見直しを行う。 ・HP等を活用した情報提供をする。 ・同窓生と親の会主体での活動の支援を行う。	A	A	B	反省・課題	・PTA交流会を公開授業日や奉仕活動日に合わせることで参加しやすいようにした。交流会の内容や方法については今後も検討が必要だが、保護者の要望を踏まえ方向性が決まりつつある。 ・HPを活用し、随時情報提供に努めることができた。 ・同窓生と親の会では、役員が主体となってレクリエーション活動や成人を祝う会などを実施し、その支援を行うことができた。
							改善策	・無理なく、より保護者が主体的に参加できるPTA活動となるよう専門部の活動内容等について保護者と見直しや検討をする必要がある。併せて、活動内容に伴う組織や役員人数等の見直しを検討していく必要がある。 ・HP等を活用し、PTA活動、同窓生と親の会の活動などをよりわかりやすく伝えられるように工夫していく。
特別活動部	3①保護者・地域への情報発信を工夫し、地域社会に開かれた教育課程を目指す	・新型コロナウイルス感染症5類移行後の行事や活動の見直しをもとに、実施・検証し、今後に向けて定着化を図る。	・運動会の実施時期、内容についての検討 ・JRCの活動計画の検討、実施 ・児童生徒会活動の年間指導計画作成 ・こぶし祭一斉開催の実施	A	A	B	反省・課題	・こぶし祭については、コロナ禍後初めて一般客を入れて行い、事前の情報発信や安全な実施ができた。 ・運動会、こぶし祭が隔年となり、実施する時期や実施に伴う変更について各学部、分掌部の協力を得て検討、決定することができた。 ・生徒会役員主体で、校内での活動としてキボンヌイラストコンクールを行うことができた。次年度は、校内外での奉仕活動的な内容も検討、実施していく。
							改善策	・運動会、こぶし祭の隔年開催を実施、検証し、今後に向けて定着を図る。
情報部	2②ICTを活用した授業、校務処理の充実	教材データベースや学校ホームページの充実を図ったり、データやデジタル教材の有効な活用方法を検討したりして教育のDX化の推進を図る。	・Formsの効果的な利活用 ・Teamsの利活用 ・ZoomやYoutubeを使ったオンライン授業の充実 ・校務支援システムの機能の理解と活用 ・教材データベースの充実 ・学校ホームページの充実 ・生成AIやクラウドの活用	A	A	B	反省・課題	学校ホームページの「保護者用ページ」の活用の幅を広げ、修学旅行のリアルタイムでの更新や学部・学年だよりのデジタル化を推進することができた。教材データベースについては、少しずつデータが集約できてきたものの、インデックスファイルの不具合でデータの更新ができない状態となっている。
							改善策	ICT支援員等の協力を得ながらインデックスファイルの動作条件や不具合の原因を検証し、安定して動作する状況下での運用を検討する。

小学部	1①学習指導要領に対応した指導計画をもとに、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善	自立活動の指導において、個々の実態把握、ねらいを明確にした具体的な指導の実践や評価を行い、指導の工夫や授業改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動支援シートに基づいた実態把握や目標設定、評価の共有及び検討 ・自立活動指導内容一覧表を用いた指導や授業の実践 	A	A	B	反省・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの事例検討会を行い、実態や目標、評価、実践の工夫等について教員間で共有したり、専門家やアドバイザー役教員からの助言を受けながら協議したりすることができた。 ・自立活動指導実践カードにより、各学級の実践を記録することができたが、継続的な指導や評価、指導の改善につなげていく必要がある。
							改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動支援シートや自立活動指導内容一覧表、実践カードを積極的に用いて自立活動の視点を広げたり、教員間で情報や教材を共有したりしながら、日常的で継続的な授業や指導の実践、改善に生かしていく。
中学部	1①学習指導要領に対応した指導計画をもとに、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善	日常生活の指導における、関連する教科の明確化と年間指導計画に基づいた授業実践に取り組み、授業改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の指導に関連する教科の明確化 ・関連する教科を意識した授業実践及び評価方法の検討 ・評価に基づいた授業改善の実施 	A	A	B	反省・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日生における関連教科の明確化を図ることができた。 ・関連する教科を意識した授業実践に取り組んでいるが、評価方法についてさらに検討が必要。
							改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践を積み重ねながら、評価方法の検討を引き続き行い、評価に基づいた授業改善を実施していく。
高等部	1①学習指導要領に対応した指導計画をもとに、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づいて授業を実践する中で、生徒の主体的な活動を引き出し、自己肯定感を高められるような指導方法や評価の仕方とその活用について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育全体期計画や自立活動の課題を踏まえた個人目標の設定 ・生徒の主体的な活動を引き出す環境の設定 ・担任と授業担当者が連携して行う指導と評価 	A	A	B	反省・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方法の統一や情報共有をすることができた。 ・対象生徒以外の生徒の評価の在り方については不十分であり、改善が必要がある。
							改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会の日に学年だけでなく、各課程、各作業班でも話し合う機会を設定し、生徒の評価を共有する。
	関連する重点目標	取組目標	具体的な取組	保護者アンケート	教職員アンケート	評価A~D	反省と課題及び改善策	
働き方改革委員会	4②働き方改革の継続、ウェルビーイングの推進と教職員の保健管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善と働きやすい、やりがいのもてる職場環境作りに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間の適正化 ・意識改革 ・業務改善（ICTの活用など） ・学校運営体制の充実 ・教職員間のコミュニケーションの円滑化と互いに支え合う雰囲気の醸成 	/	A	A	反省・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平均91%の評価。超過労働時間の削減への意識はもてている。 ・教材の共有は、今年度生成AIの活用研究があり、新たな取り組みを試みたことで、「作成」のウエイトが高かったと考える。
							改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校内ライトダウンデーの取り組みの検証を含め、現在の取り組みを継続する。